

西中田小学校 5年生サケ物語

サケの遡上見学

11月11日(火)



5年生は、自分たちの学校のすぐ近くまでサケが遡上してくることを知り、見学に出かけました。6月に、みんなで水遊びをしたところにもたくさんのサケが遡上してきていました。

もっと上流を目指すサケ、産卵しようとしているサケ、そして、産卵を果たし、朽ちていくサケを目の当たりにしました。



奇跡のサケ

11月11日

サケは、名取川で生まれ、名取川を下り、海へ向かいます。4～5年間、大きな大きな海で過ごし、また、名取川に帰ってきます。そして、産卵をして一生を終えます。

今年、名取川に戻ってきたサケが、名取川から海へ向かったのは、2011年3月。東日本大震災の年。

5年生が観察したサケは、東日本大震災時に名取川を上ってきた津波からまぬがれ、大きく育てて帰ってきた奇跡のサケ。

そのことを知った5年生は、奇跡のサケが産んだ卵を自分たちの手で育ててみたいとなりました。

サケの卵

12月4日

12月4日、名取川漁協の方からサケの卵をいただいてきました。11月に採卵したもので、つぶつぶの中には黒い目が見えるものもあります。

漁協の方からは、「冷たい水で育てる」「卵がかえるまで水槽は暗くしておく」と飼い方を教えていただきました。

さっそく、学校に持ち帰って水槽に入れました。



サケの卵がやってきました

12月5日

みんなが育てたいと思っていたサケの卵が学校にやってきました。暗くしておかなきゃならないけど、そっと開けて観察。

「うわっ、かわいい」「小さい」「黒い目が見える」

「ちょっと動いたぞ」

中には、「おいしそうだな」なんて声も

みんな大騒ぎです。



12月11日

早くかえってほしいなあ



みんな毎日卵の観察。中で動くのが分かるぞ。早くかえってほしいなあ。でも中には、白く変色してしまって、死んでしまったものもある。

このままにしておくとも、水が汚れるから取り出してあげないといけないな。

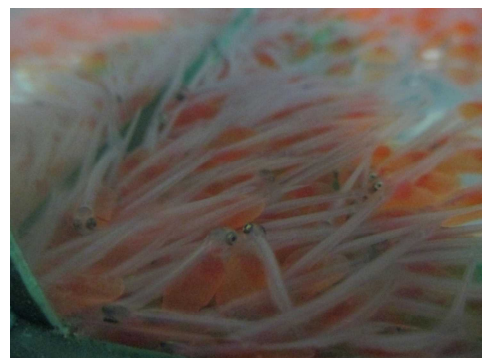
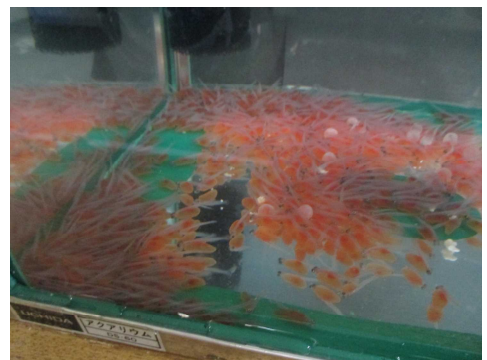
うわあ 卵からかえった

12月15日

12月15日 朝 学校に来てみると、卵がかえっていました。1, 2, 3, 4, ...たくさんいるから数えられない。

サケは、卵から出てきましたが、おなかに大きな袋をつけています。この中にはまだ栄養が入っているので、えさは食べません。だんだん袋が小さくなって、なくなったらえさをあげるんだそうです。

サケの体は透き通っていてとってもきれい。目がとっても大きいなあ。袋はジェリービーンみたいな形をしている。



12月19日

あわのそうじが大変だ



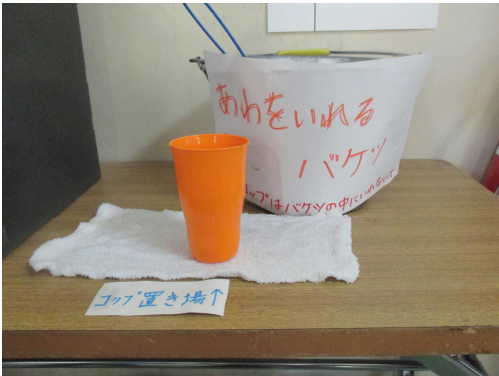
卵がかえったら、水そうの水がずいぶん汚れてきた。水そうの上にたくさんあわが浮いている。

卵の殻もたくさん漂っている。

水をきれいにしなくちゃいけない。みんなで交代であわをとろう。

あわは、取っても取ってもたくさん出てくる。あわを取るから水も減っちゃう。水道の水は、すぐには入れられないから、バケツにくみ置きもしくなくちゃいけない。

いつになったらあわがなくなるんだろう。



少し黒くなってきたぞ

12月24日

サケのからだ黒くなってきた。相変わらずおなかには赤い袋がある。でも、袋の形が変わってきた。細長くなってきていて、色も薄くなってきた。袋の真ん中の色が濃いなあ。

おなか重いのか、横になっているのが多い。あんまり泳がないなあ。



1月11日

ますます黒くなってきた



サケは、ますます黒くなってきた。端に固まって横になっている。あんまり動かない。袋は小さくなっていく。おなかの下をみると、おなかとじそうになっているものいるなあ。

かえらなかった卵は、白いかたまりになって沈んでいる。

1月15日

お食い初め

おなかの袋がなくなったサケも出てきた。いよいよえさをやる時がきた。えさは、漁協でいただいた一番小さいえさをあげてみよう。

「食べるかな。」「あっ、食べた。」

初めて口から食べたえさ。どんな味だったのかな。

えさをあげすぎると、食べ残してしまう。食べ残しが出ると水が汚れるから、少しずつ、少しずつあげよう。



1月23日

サケらしくなってきた



ずいぶんサケらしくなってきた。体の上は黒くて、しましまも見えるようになってきた。

体の下は、ぴかぴか光っている。

泳ぎも上手になっている。

なんだか水そうが狭くなってきたみたい。

2月

5年生 サケ論争

少し水そうが狭くなってきた。一つの水そうでは、育てきれないのかもしれない。

「水そうを増やして分けた方がいいのかな。」

「水そうを増やして分けるなら、他の学年にも見てもらえるようにしようか。」

「絶対にいや!」「分けない方がいいよ。」

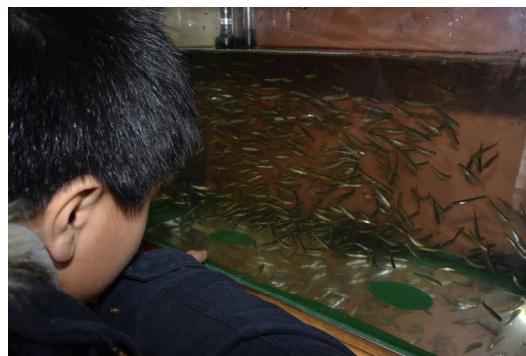
「どうしたらいいか、菅原さんに相談しよう。」

「カワラバンの菅原さんは、水そう一つに対して、サケが多すぎるから、分けて育てた方がいい。」って教えてくれた。

「サケのためには、水そうを分けた方がいいのかもしれない。」

「でも、このサケたちは、5年生で育てていきたい。」

「最後までわたしたちで育てていきたい。」



2月5日

サケのお引っ越し



結局サケは、1組、2組、3組と3つの水そうに分けて飼うことにしました。5年生の廊下に3つの水そう。クラスでサケ委員を選び、5年生が最後まで責任を持って育てていきます。

3つの水そうに分けられて、サケはゆったりと泳いでいます。水そうが広々見えます。

2月20日

放流まであと少し

体長が4 Cm ほどになりました。ずいぶん大きく感じられます。3つの水そうでゆうゆうと泳いでいます。

えさもちょっと大きいものを食べるようになっています。

えさをあげると、一斉に上に上がってきて口をぱくぱくさせて食べています。

放流の日も3月2日に決まりました。学校の近く、太白大橋付近から放流をします。



2月23日

サケ委員会からのお知らせ

お昼の放送で、全校のみんなにサケのことを紹介しました。

今までずっと5年生で育ててきました。他の学年の人たちにも成長したサケを見てほしいので、みんなに呼びかけました。

放送後、さっそく1年生が見に来てくれました。



3月2日 サケを放流する会

今日は、いよいよサケを放流する日。みんなで名取川まで歩き、川原で「サケを放流する会」を行いました。

この会では、今まで名取川の学習でお世話になった菅原さんへお礼の言葉とお礼状をお贈りしました。

そして、みんなの代表がサケへのメッセージを読み上げ、サケが元気よく海へ出て行くように、サケへエールをおくりました。

「フー フー サ〜ケ、 オー」



いよいよ 放流。一人一人コップに入れてもらい、5年生全員で放流しました。

順番に川原に並ぶと、「元気でね。」「帰ってきてね。」「大きくなってね。」と声をかけながら、川の中に放してあげました。

前日の雨で水が多くなった名取川。濁っていて、放流されたサケはあっという間に見えなくなりました。



みんなが放流したサケ、名取川に戻ってくるのは4年後。今日、放流したのは約400匹。どのぐらいのサケが戻ってきてくれるんだろう。